

「あいち国文の会」×「日本文化学部」コラボレーション事業 (日本文化学部ミニオープンキャンパス)

伝統 と 革新

2000年の発足以来、愛知県の文化の継承と発信に寄与してきた「あいち国文の会」の事業を基盤として、人文学に関する幅広い専門性を有する本学日本文化学部の教員と、本学を卒業・修了した研究者による公開講座を開催します。「あいち国文の会」は、愛知県ひいては中部地域における教育・研究の歴史の縮図であり、本事業は、これまで愛知県とともに築いてきた、地域に根ざす人文学的研究の成果をふり返し、この先どのようにしてそれを支えていくのかという問いに応えるものです。公開講座を通じて、地域住民をはじめ、より若い世代に対しても、愛知県の歴史・文学・文化の面白さを伝え、次世代へと継承する足がかりとします。

2026年10月24日(土)14:00~17:00

参加費無料
(事前申込不要)

愛知県立大学長久手キャンパス 特別講義棟(S棟)201教室

[交通アクセス] 東部丘陵線(リニモ):「愛・地球博記念公園」駅下車徒歩5分

※終了後、大学生協食堂にて懇親会を開催します(申込不要、学生・卒業生歓迎)

第一部 時代の記憶と知の対話

- ◆早川厚一氏 (名古屋学院大学名誉教授)
軍記物語研究を始める
- ◆亀田夕佳氏 (三重大学人文学部特任准教授)
平安文学研究と私
- ◆名倉ミサ子氏
(本学大学院国際文化研究科で博士(日本文化)取得)
『百鬼夜行絵巻』のなぞに挑む
- ◆佐藤元紀氏 (千葉大学教育学部准教授)
「基礎研究」と研究の基礎
——中原中也『山羊の歌』をめぐる

第二部 未来につなぐクロストーク

登壇者×学部教員×在学生による
パネルディスカッション



問い合わせ

愛知県立大学学務部学務課(日本文化学部担当)
〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間1522-3
TEL:0561-76-8823(直通) FAX:0561-64-1105
E-mail nihon-b@puc.aichi-pu.ac.jp

※本事業は「久保村歴史文化研究会」からの助成を受けて開催します。

登壇者略歴

早川 厚一

(1970(昭和45)年度卒業)

主要な研究対象 中世軍記物語

執筆論文等

『平家物語を読む―成立の謎をさぐる―』

(和泉書院、2000年)、

『軍記物語創成』(和泉書院、2026年)

『四部合戦状本平家物語全訳 全12巻』

(和泉書院、巻六～灌頂巻まで7冊完成。

2000年～)

亀田 夕佳

(1991(平成3)年度卒業)

主要な研究対象 平安文学

執筆論文等

『海山の饗宴―『伊勢物語』八七段の表現―』

(廣田収・辻和良編著『いかにその物語は

面白いか』武蔵野書院、2025年)

『予祝の海浜―『斎宮良子内親王具合日記』

の和歌表現―』(『人文論叢 三重大学人文

部文化学科研究紀要』第42号、2025年)

名倉 ミサ子

(2005(平成17)年度卒業)

主要な研究対象 中世絵巻物・説話

執筆論文等

『『百鬼夜行絵巻』の行列と舞楽法会』

(『伝承文学研究』第61号、2012年)

『解説真珠庵本『百鬼夜行絵巻』の暗号』

(三弥井書店、2023年)

佐藤 元紀

(2005(平成17)年度卒業)

主要な研究対象 中原中也を中心とした近現代詩

執筆論文等

『中原中也とヴェルレーヌ―『紀元』における

〈呪われた詩人〉―』(『中原中也研究』第30号、2025年)

『「被征服者」／「被征服民族」たちの声―

岡本彌太・末刊詩集『山河』の可能性』

(『千葉大学教育学部研究紀要』第71巻、2023年)

『言葉』における〈驚異〉の探求―

アポリネール「特輯」と関義「ヘルクラノムの悲劇」を

めぐって』(『坂口安吾研究』第6号、2023年)

日本文化学部沿革

(愛知県立第一高等女学校の一角でスタート 名古屋市東区、のちの明和高校)

1947年(昭和22年)愛知県立女子専門学校開校(国文科)

1950年(昭和25年)愛知女子短期大学設置(国文科)

1951年(昭和26年)キャンパス高田校舎(名古屋市瑞穂区高田町)に移転

1951年(昭和26年)国文科に第二部(夜間)設置

1953年(昭和28年)愛知県立女子短期大学と改称

1957年(昭和32年)愛知県立女子大学開学

1966年(昭和41年)愛知県立大学発足(文学部国文学科)

1998年(平成10年)愛知県立大学 長久手新キャンパスへ移転開学(文学部日本文化学科を新設)

2009年(平成21年)愛知県立大学日本文化学部(国語国文学科・歴史文化学科)誕生

あいち国文の会

2000年9月、研究会という形で愛知県立大学において発足いたしました。時は恰も日本の大学に法人化の波がおし寄せて国文学科の存続も危ぶまれる時機にあり、国文学科の教員・同窓生が昨今の国文学研究の衰退を憂え、国文学研究の活性化をはかるとともに、今後の国文学研究がますます盛んになることを願って出発したものであります。研究者からは学会の最新の情報を、同窓生からは得意とする分野の話を、大学院生からはとり組んでいる研究課題を、学部生からは授業での疑問を、近隣地域の文学愛好家(愛知県立大学関係者および岐阜・三重・静岡等)からは郷土に関わる話など、さらに最近では国文学周辺の史学・哲学にも広がって200回を超える開催となっております。

また、2007年7月には会誌『あいち国文』1号を発行し、一年に一冊、現在『あいち国文』19号(2026年3月)まで発行されています。

『愛県大史WEB』

叡智の軌跡、未来につなぐ

愛知県立大学の歴史は、戦後から今日までの愛知・日本・世界の動きと密接に関係しつつ、高等教育の理想と課題を不断に追求する過程をたどっています。公立大学の存在意義を体現するべく、地に足着けて広い世界を見据えて進む姿を感じ取っていただけたらと思います。

